FITNESS PRO. ALINCO

プログラムバイク7010

AFB7010

取 扱 説 明 書

安全にご使用していただくために

取扱説明書をよくお読みいただき、内容を十分理解された上でご使用ください。

● 改良のため、デザイン・仕様を一部変更している場合があります。ご了承ください。

ご使用前に必ずお読みください

この度は、プログラムバイク7010「AFB7010」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。
この取扱説明書は、本製品の組立と使用上の注意及び警告事項について詳しく記載しています。
本製品をご使用になる前には、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、事故が起こらないよう、記載内容にしたがって正しくお使いください。また、お読みになった後も、必要な時にいつでも調べられるよう、すぐに取り出せる場所へ大切に保管してください。尚、本製品のご使用制限は体重90kg以下・連続使用時間30分までとなります。（機器の連続使用によって熱を帯びた部品を冷却し、故障を防止するため、また、機器を末永くご利用いただくため、連続使用後、約1時間は機械を休ませてください。）

INDEX

⚠ 本製品のご使用は、注意を怠ると大変危険です！

家庭で行うトレーニングは、ちょっとした不注意で大きな事故につながります。
本書に記載されている内容を守り、自己の責任のもとでトレーニングを行ってください。
お客様の不注意によるいかなる事故も、弊社としましては一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

警告・注意

安全のために、必ずお守りください。

取扱説明書の警告及び注意内容は、危険の度合によって次の2段階に分けています。
表記されている内容をよく理解していただき、取扱説明書に従った使用法で点検・運動を行ってください。

⚠ 警　告

記載されている内容を守らなければ、死亡や傷害事故が生じる危険のあることを示します。

⚠ 注　意

記載されている内容を守らなければ、けがや製品が破損する恐れのあることを示します。
・破損したままで使用しますと、傷害事故の原因になります。

本書記載の警告及び注意事項を遵守されずにご使用されて生じたいかなる事故につきましても、弊社としましては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。また、本書記載の警告及び注意事項に該当すると思われる場合は本製品の組立及びご使用はせず、ただちにサービスセンターへお問い合わせください。

●また、各ページには安全にご使用いただくための注意点も表記しております。よくお読みいただき、書かれている内容を十分ご理解の上、ご使用ください。

組立前の警告事項

⚠ 警　告

1. 本製品は家庭用の自転車エルゴメーター（フィットネスバイク）です。学校・スポーツジム等、不特定多数の使用者によって使用されるものではありません。また、運動以外の目的では使用しないでください。
2. 本製品は日本国内でのみお使いください。
3. 本製品の使用は健康な方を対象としています。
次に該当する方は本製品を使用しないでください。
● 医師が使用を不適当と認めた方
次に該当する方は必ず医師に相談の上、ご使用ください。
● 医師の治療を受けている方や、特に身体の異常を感じている方
● 知覚障害のある方
● 妊娠している、または妊娠の疑いのある方
● 皮膚疾患のある方
● 血行障害、血管障害など循環器に障害をお持ちの方
● 骨粗しょう症など骨に異常のある方
● 心臓に障害のある方
● ペースメーカー等の体内植込型医療電子機器を使用している方
● 呼吸器障害をお持ちの方
● 高血圧症の方
● 内臓疾患（胃炎、肝炎、腸炎）等の急性症状のある方
● 悪性の腫瘍のある方
● リウマチ症、痛風、変形性関節炎等の方
● 過去の事故や疾病等により背骨に異常のある方や背骨が曲がっている方
● 腰痛（椎間板ヘルニア、脊椎すべり症、脊椎分離症等）のある方
● 脚、腰、首、手にしびれのある方
● 脚部に静脈りゅう等の重度の血行障害や血栓症等のある方
● リハビリテーション目的で使用される方
上記以外に身体に異常を感じている時
4. 小学生以下及び一人での運動に不安を感じている方、または他者から見てそう感じられる方が使用される場合、リハビリテーションでの目的で使用される場合は、成人（健常者）の方の介添えの上、ご使用ください。また、5才以下の乳幼児やペットのいる場所でのトレーニングはお止めください。
5. 本製品の使用体重制限は最大90kgです。体重90kgを超える方はご使用にならないでください 。ご使用中、機器が破損する恐れがあり、重大な事故を引き起こす原因になります。
6. 本機の連続使用耐久時間は最高30分です。30分以上の連続作動はお止めください。また、ご使用後1時間はご使用にならないでください。故障の原因になります。
7. この取扱説明書及び保証書は、大切に保管されますようお願いします。紛失された場合、再発行はお受けしかねることがあります。

警告・注意

組立時の警告・注意事項

⚠ 警 告

1. 本製品を長期にわたりご使用いただくため、ボルトの締まり、ピンの差し込み、金属バリ等の有無、変形、また、全ての溶接箇所にひび割れ等がないかご確認ください。
2. 本製品の「組立時」及び「ご使用中」の際には、ボルト、ナット、パイプ、駆動部分に手、指などを挟まれないようにご注意ください。また、床面を保護するマット等をご使用ください。
3. 安全のため、組立の際は、必ず、軍手等を着用して、大人2人以上で行ってください。
4. 本製品をご自分で改造もしくは、付加及び部品を取り外した状態で使用された場合、重大な事故を起こす恐れがありますので絶対にしないでください。

⚠ 注 意

1. 設置の際は十分な場所を確保し、敷物を敷くなどして床や既存の家具に傷が付かないよう、注意して行ってください。
2. 設置作業中、カッターナイフなどの刃物や工具を使用する場合は、取り扱いに十分ご注意ください。
3. 組立前に部品が全て揃っているか、必ずご確認ください。もし揃っていない場合は決して組立はしないでください。
4. 組立完了後、大きなグラつきやガタがないか十分にご確認ください。

使用中の警告・注意事項

⚠ 警 告

1. ご使用になられる前には、その都度、各部の部品が完全に固定されているか、必ず確認してください。ボルトがゆるんでいますと、ご使用中にパーツがはずれたりすることもあり、重大な事故を起こす恐れがあります。
2. ご使用前に、サドル及びハンドル取り付け部分等がしっかりと固定されており、また運動しやすいように調整されているかどうかをご確認ください。
3. 本製品への巻き込みを防ぐため、運動中は身体のサイズにあった運動着を着用し、(ゆったりと余裕のありすぎる衣服は避けてください。)ソックスとゴム底またはスポンジゴム底の運動靴(ランニングシューズ、トレーニングシューズ)をはいてご使用ください。
4. 乗降する際、ハンドルにもたれかかったり、使用中に前後左右に激しくゆする運動、また周囲の人が使用者、及び本製品を押したり引いたりする行為は、安全性を損ない重大な事故を起こす恐れがありますので決してしないでください。
5. 当製品のベアリング部分は、非常にデリケートで精密にできています。立ち上がったままのペダリング、本体が左右に激しく揺れる位のアンバランスなペダリングは絶対にお避けください。過激な走行は故障の原因となります。
6. 回転中のクランク(ペダル側の回転軸)及びホイール部には、決して指等で直接触れないでください。ホイール等に巻き込まれ重大な事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。
7. 安全のため、ピンやボールペン等をポケットに入れたり、衣服に付けたままでの運動は絶対にしないでください。
8. 安全のため、本製品を脚立や踏台等のかわりに使用しないでください。
9. ご使用になる前には十分な準備運動を行い、体をほぐしてください。また、運動後も同様に体をほぐしてください。直接トレーニングされますと筋肉等に損傷を及ぼす原因になります。
10. 本製品は1人用です。同時に2人以上でご使用にならないでください。
11. 安全のため、使用中以外でも車輪やチェーン等の駆動部分に手、指などを入れたりせず、また物や動物、特に乳幼児等取扱説明書を理解できない方が本製品に近づかないように十分注意してください。
12. 運動は少し疲れる程度の運動量を毎日継続して行うのが良く、無理な運動は筋肉を傷めるばかりか、運動効果も少なくなります。
13. 下記のような症状が出た時は、運動を中止してください。(めまい、ふらつき、冷や汗、顔面蒼白、失神、嘔吐、心拍の乱れ、動悸、胸の圧迫感、けいれん、関節、筋肉等の痛み、骨折、その他心身の異常)
14. **ご使用中は必ず、ハンドルを握ってご使用ください。**
15. 健康のため、食直後は運動を避けてください。また、飲食・喫煙をしながらや飲酒後の運動は行わないでください。
16. 保護者の方は幼児等が本製品を遊具として使用しないよう十分ご注意ください。
17. 各部を操作する時には、手指を挟まないように注意してください。
18. 事故・破損の原因となりますので、表示メーターや本体カバーに寄りかかったり、腰をかけたりしないでください。

19. バイクをご使用の方に対して、特にご注意いただきたい内容をラベルにして貼っています。警告ラベルをはがしたり傷つけたりしないでください。
20. 事故・破損の原因となりますので、弊社指定の修理技術者以外の方は、表示メーターや本体カバー内などを分解したり、改造・修理は絶対にしないでください。
21. 幼児や、取扱説明書・警告ラベルの内容が理解できない方がお一人で機器に触れ、誤作動をしないように十分注意してください。誤った操作は事故の原因となります。

⚠ 注　意

1. 本製品は必ず屋内でご使用ください。屋外や倉庫、ベランダや軒下などのチリやホコリ、砂などの多い場所では使用しないでください。サビや傷み・故障の原因になります。
2. 本製品は水平な床の上に設置し、**使用中及び機械の移動の際にも必ず床面を保護する不燃性のマット等をご使用ください。**特にたたみの上ではご使用にならないでください。たたみに損傷を与えます。
3. 運動中に体を壁や柱になどぶつけないよう、広い場所でお使いください。

電動機器の警告事項

⚠ 警　告

―― 本製品はAC100V(50／60Hz)電源を使用します ――

1. ご使用後は必ず、AC／DCアダプターをコンセントから抜いてください。
2. 使用にならない時や、雷が鳴り出した時には、AC／DCアダプターをコンセントから抜いてください。故障や、感電・漏電・発火の原因になります。
3. 本製品付属の専用アダプター以外を使用しないでください。

お手入れについての注意事項

⚠ 注　意

1. 本製品を長期にわたりご使用いただくため、定期的に汚れ等を拭きとってください。また、汚れが落ちない場合は、中性洗剤のうすめ液で拭きとってください。
2. 本製品は、塗装加工及び各部に樹脂を使用していますのでシンナー系や酸系の強い洗剤でのお手入れはお避けください。

保管についての警告・注意事項

⚠ 警　告

1. 保管場所は本製品でつまずかないような場所に置き、特に小さなお子様が勝手に触ることのないよう、必要に応じて梱包等を施してください。また、直射日光が当たる場所や高温・多湿な場所には保管しないでください。
2. 万一、故障その他のトラブルが発生した場合には、お手数でも弊社サービスセンター(フリーダイヤル0120-30-4515)までご相談ください。
3. 長期間ご使用になられますと、サビや摩耗により部品等の劣化が起こる場合があります。お買い上げ日より1年間を過ぎた製品で、購入日が弊社にて確認できる場合は有償にての点検サービスも行っておりますので、お気軽に弊社サービスセンターまでご相談ください。

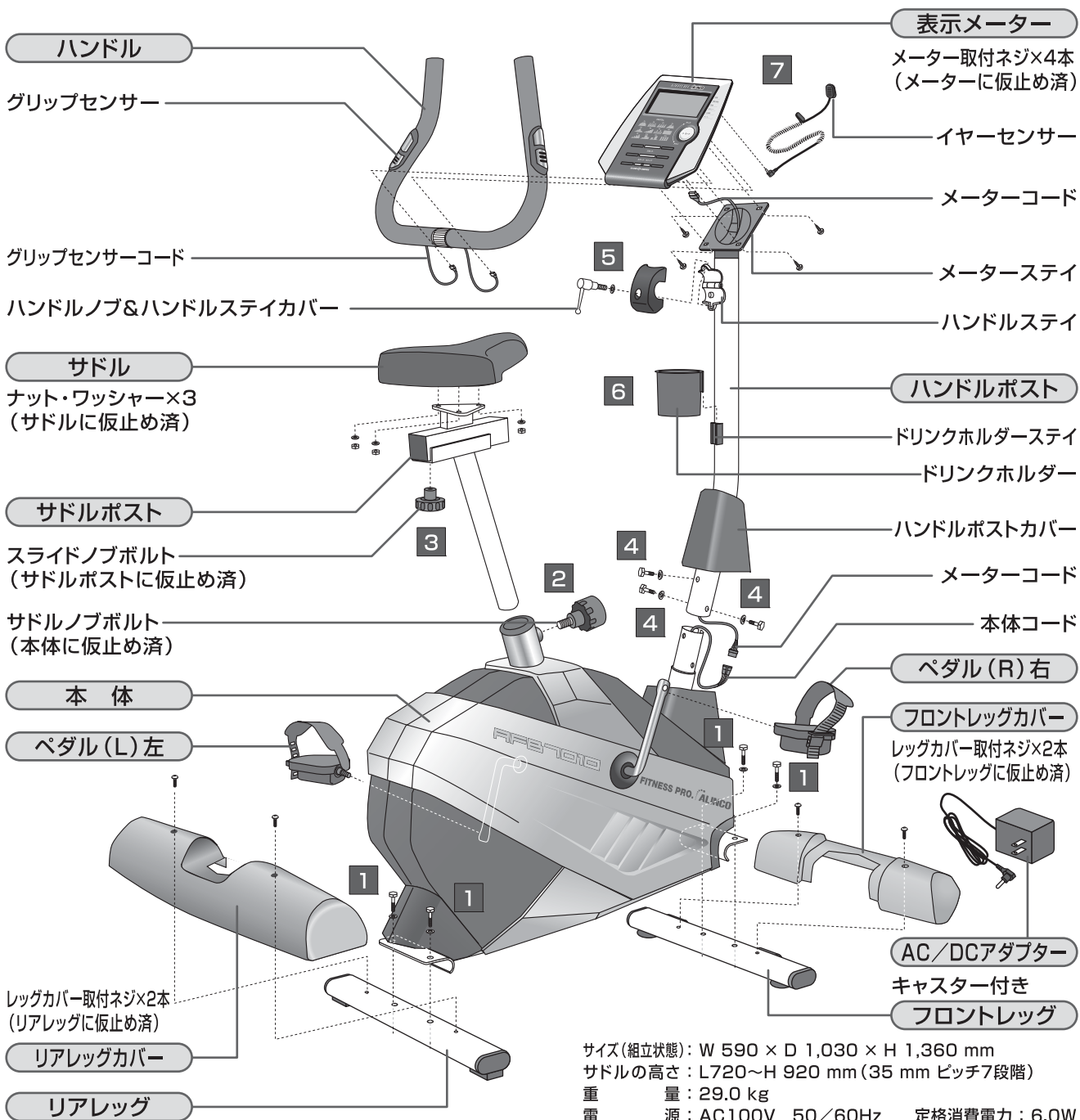
⚠ 注　意

1. ほこりや湿気のある場所、また、直射日光が当たる所や高温な所は避け、乾燥した場所に保管してください。
2. 長期間保管され、再び使用される場合は、本書の警告及び注意事項を再確認の上、ご使用ください。また、長期間使用されなくとも、部品の油切れ及びサビの発生などが予想されますので、本書の警告及び注意事項を確認し、異常がない事を確かめてから、ご使用ください。

各部の名称 部材及び付属品

梱包をあけましたら組み立てを行う前に、必ず各部品・付属品が揃っているかご確認ください。

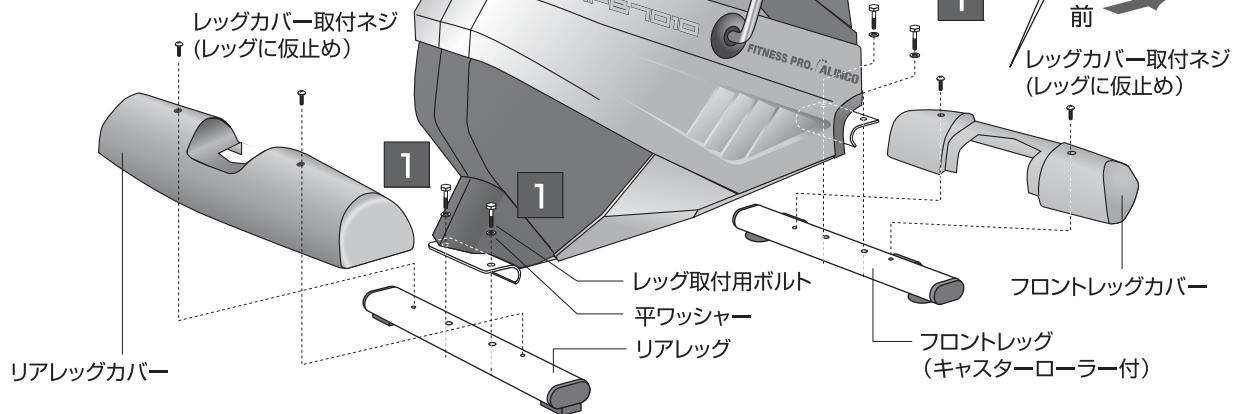
サイズ（組立状態）：W 590 × D 1,030 × H 1,360 mm
サドルの高さ：L720〜H 920 mm（35 mm ピッチ7段階）
重　　量：29.0 kg
電　　源：AC100V　50／60Hz　　定格消費電力：6.0W

付 属 品

No.	品名	数量
1	レッグ取付用ボルト＋平ワッシャー（フロントレッグ・リアレッグそれぞれに仮止め済）	×4セット
2	サドルノブボルト（本体に仮止め済）	×1個
3	スライドノブボルト（サドルポストに仮止め済）	×1個
4	ハンドルポスト取付用ボルト＋波ワッシャー（本体取付部に仮止め済）	×3セット
5	ハンドルノブ＋平ワッシャー＋ハンドルステイカバー（ハンドルポストに仮止め済）	×1セット
6	ドリンクホルダー	×1個
7	イヤーセンサー	×1本
8	工具	×2個

組立手順（床を傷つけないように、必ず床面を保護するマットなどの上で、組立手順に従い組み立ててください。）

必ず、軍手等を着用し、大人2人以上で組み立ててください。各部の組立は指で締める程度に仮止めし、すべて作業が終わった後、付属の工具等を使ってしっかり増し締めしてください。

1 本体にレッグとレッグカバーを固定します

本体にフロントレッグ・リアレッグ 1 レッグ取付用ボルト・平ワッシャー（各2ヵ所）で上から固定します。キャスター付きがフロントレッグとなります。
次に取り付けたフロントレッグとリアレッグに各レッグカバーを被せてレッグカバー取付ネジ（各2カ所）で上から固定します。

⚠注意 当製品のベアリング部分は、非常にデリケートで精密にできています。立ち上がったままのペダリング、本体が左右に激しく揺れる位のアンバランスなペダリングは絶対にお避けください。過激な走行は故障の原因となります。

2 ペダルを取付けます

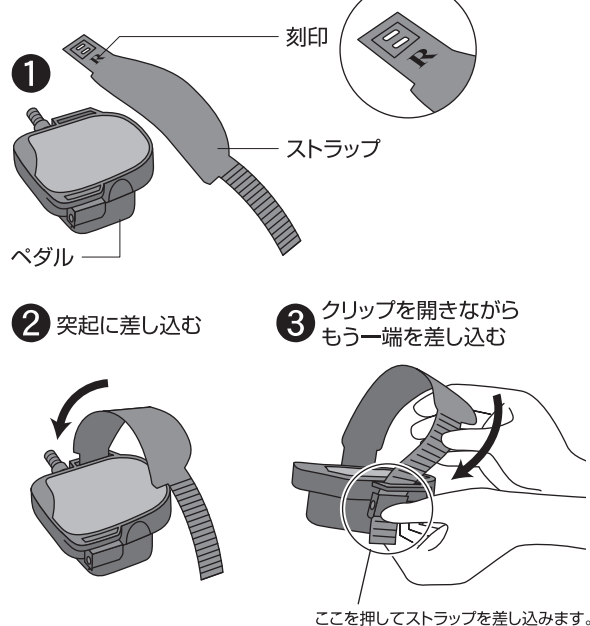
まず、ペダルにストラップを取り付けます。ストラップには、L・Rの刻印をつけています。その刻印が表に向いた状態で、ペダルのL・Rにそれぞれストラップを取り付けます。

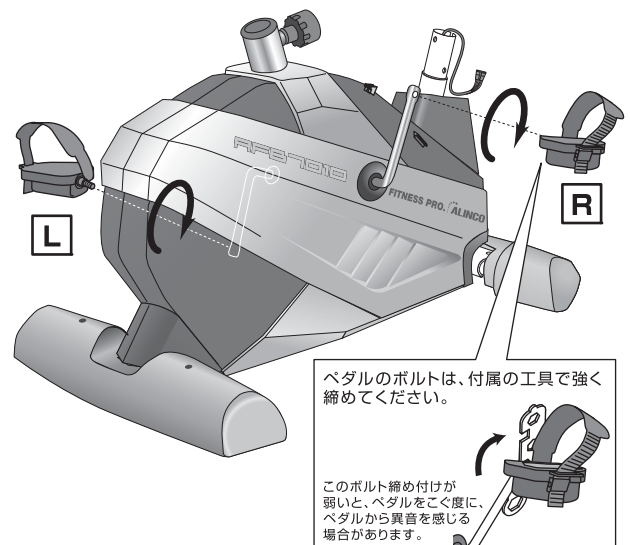
【ペダル（R）右】の場合

❶ 刻印 ストラップ ペダル

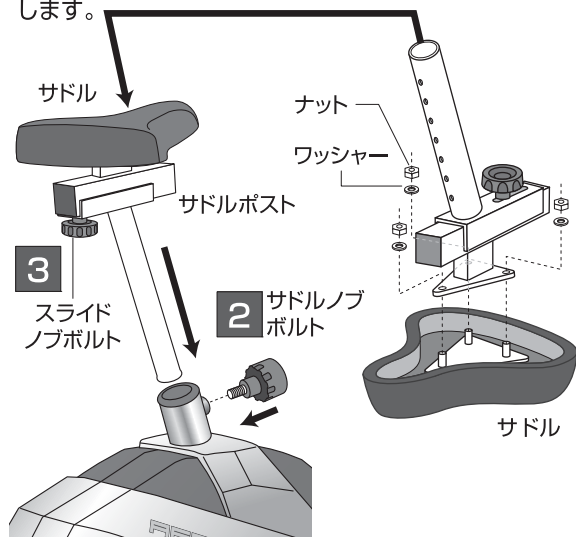
❷ 突起に差し込む

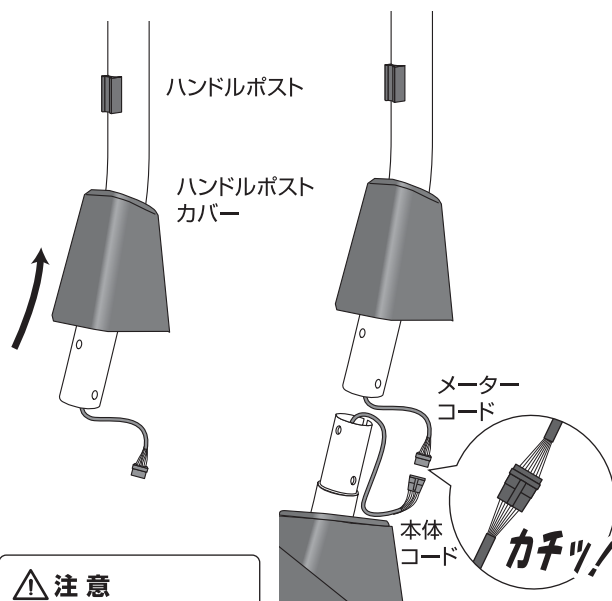
❸ クリップを開きながらもう一端を差し込む

ここを押してストラップを差し込みます。

ペダルは取付けボルト先端に、L・Rの刻印が付けてあるので（L）は左へ（R）は右へ間違わないよう取付けてください。

注）**左（L）ペダルは、逆ネジが切られています。取付の際は付属の工具で必ず左に回して取り付けてください。**
右（R）ペダルは、右に回して取り付けてください。
固定ボルトを逆さに回されますと、ネジ山が破損して締まらなくなる場合があります。

組立手順（床を傷つけないように、必ず床面を保護するマットなどの上で、組立手順に従い組み立ててください。）

3 サドルを固定します

まず、サドルポストにサドルを固定します。
（ナット・ワッシャーはサドルに仮止めされています。）
サドル固定ナットは樹脂入りナットのため、締めていく途中で固くなりますがそのまま工具で締めつけてください。次にサドルポストを本体に差し込み、サドルの高さを合わせ 2 サドルノブボルトで固定します。 3 スライドノブボルトでサドルの前後を調節します。

4 メーターコードを接続します

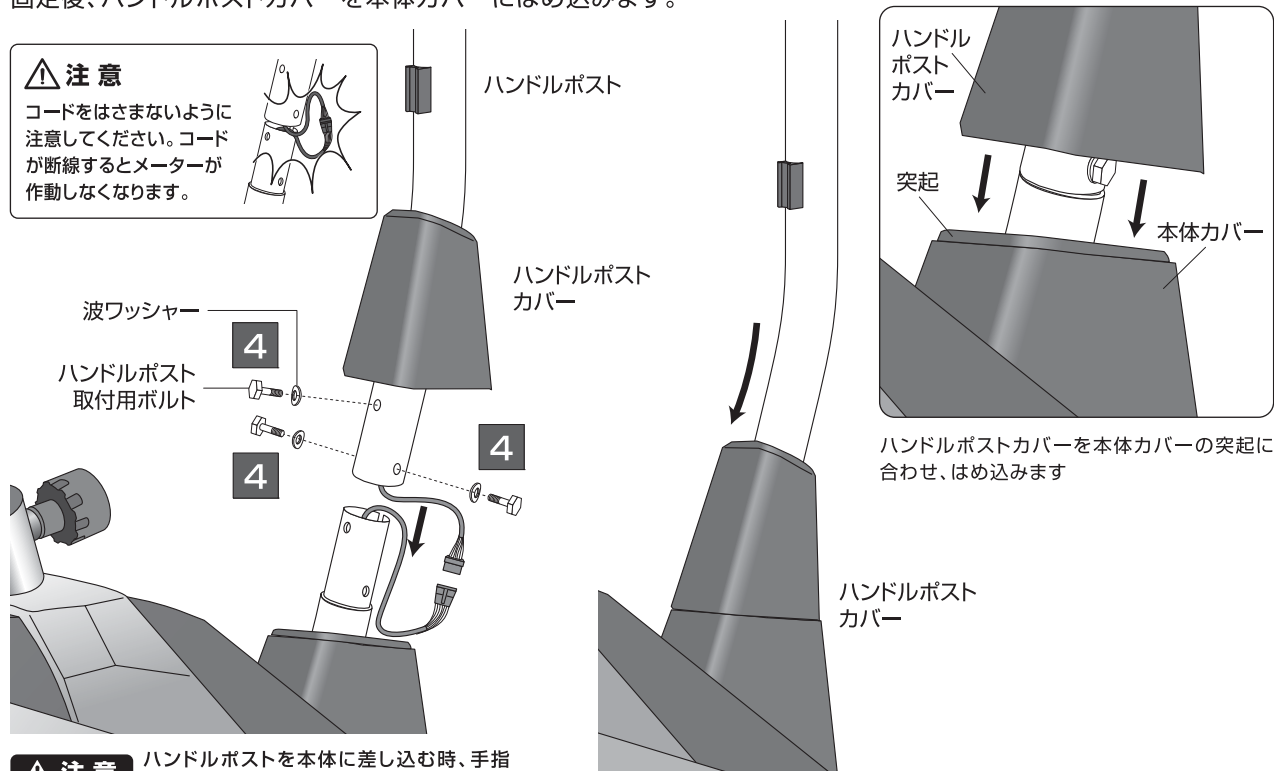
ハンドルポストにハンドルポストカバーを通し、メーターコードを本体コードに接続します。

⚠注意
コードを傷つけないように注意してください。コードが断線するとメーターが作動しなくなります。

コネクターは「カチッ」と音がするまで、しっかりと接続してください。

5 ハンドルポストを固定します

本体にハンドルポストを差し込み、 4 ハンドルポスト取付用ボルト・波ワッシャー（3カ所）で固定します。
固定後、ハンドルポストカバーを本体カバーにはめ込みます。

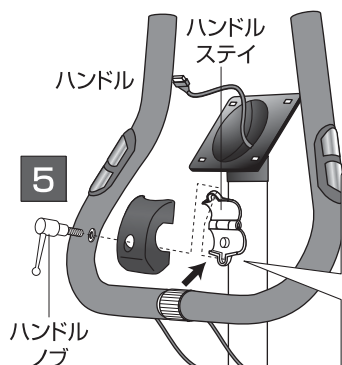
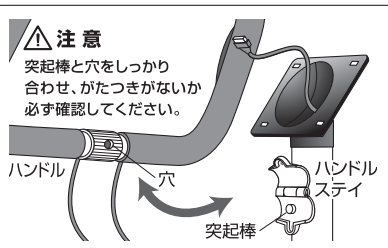
⚠注意
コードをはさまないように注意してください。コードが断線するとメーターが作動しなくなります。

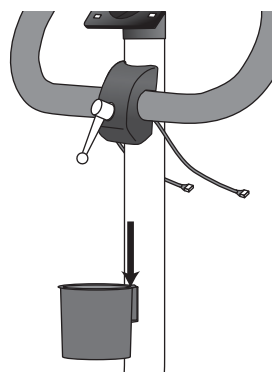
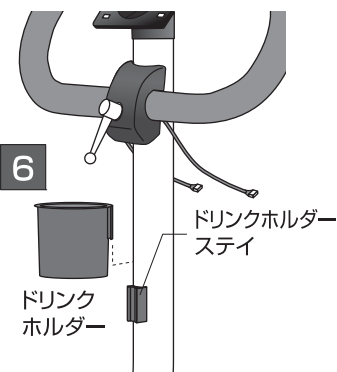
ハンドルポストカバーを本体カバーの突起に合わせ、はめ込みます

⚠注意 ハンドルポストを本体に差し込む時、手指等をはさまないようご注意ください。

組立手順（床を傷つけないように、必ず床面を保護するマットなどの上で、組立手順に従い組み立ててください。）

6 ハンドルとドリンクホルダーを固定します

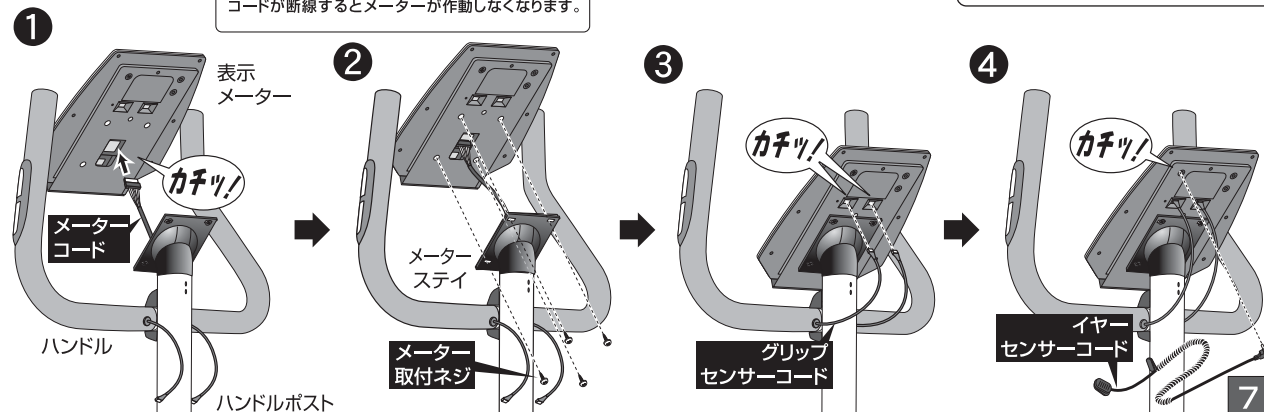
ハンドルをハンドルステイに挟み込み、5 ハンドルノブ・平ワッシャーでしっかり固定します。
その時ハンドルの穴とハンドルステイの突起棒をしっかり合わせてください。

⚠注意
突起棒と穴をしっかり
合わせ、がたつきがないか
必ず確認してください。

①ハンドルノブをいっぱいまで回します。
②手前に引っ張ると、ナットを緩めず、締めやすい角度に戻すことができます。

⚠注意 しっかり合わせ、がたつきがないか必ず確認してください。

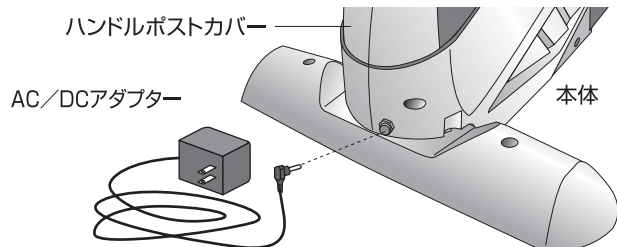
6 ドリンクホルダーは、ハンドルポストのドリンクホルダーステイに上から差し込んでください

7 表示メーターを取り付けます

❶ハンドルポストから出ているメーターコードを、表示メーター裏のコネクターにしっかりと差し込みます。
❷表示メーター裏に仮止めされているメーター取付ネジ4本で、表示メーターをメーターステイに固定します。
❸ハンドルから出ているグリップセンサーコード2本は、メーター裏の2カ所のコネクターにしっかりと差し込みます。
❹ 7 イヤーセンサーはメーター裏のジャックにしっかりと差し込みます。

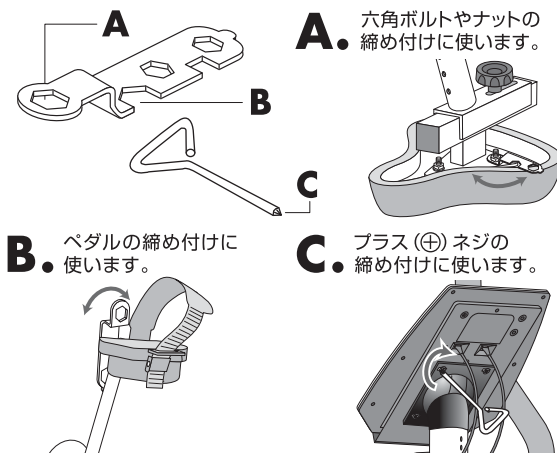
⚠注意
コードを挟まないように注意してください。
コードが断線するとメーターが作動しなくなります。

注）接続先を間違えないよう、
再度確認してください。

組立手順（床を傷つけないように、必ず床面を保護するマットなどの上で、組立手順に従い組み立ててください。）

8 AC／DCアダプターを接続します

AC／DCアダプターのコードプラグを本体カバー前部（ハンドルポストカバー下）のジャックに差し込みます。

警告 本製品付属の専用アダプター以外を使用しないでください。

※ 組立完了後、メーターに通電しない場合には、組立手順 4、7、8 のコードの接続をもう一度ご確認ください。

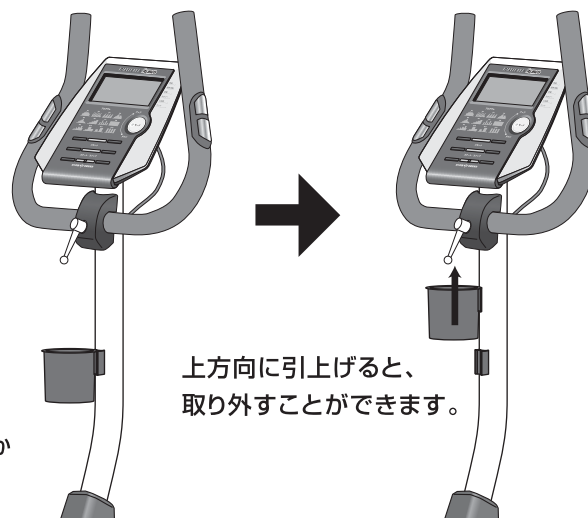
付属工具について

ドリンクホルダーと表示メーターについて

■ドリンクホルダー使用上の注意

ドリンクホルダーを使用されないときには、ドリンクホルダーステイから取り外し、保管しておいてください。

 ドリンクホルダー内には、1kg以上のものを入れないでください。

警告 ドリンクホルダー装着時には、使用中に膝が当たらないか確認してからペダルをこいでください。

上方向に引上げると、取り外すことができます。

■表示メーターの調節について

この表示メーターは角度調節が可能です。
表示メーターの上を持ってお好みの角度に調節ください。

チェックポイント・サドルの調節

チェックポイント　トレーニングを始める前にもう一度チェックしましょう

チェック 1…ハンドルやサドルにグラつきなどがないですか?

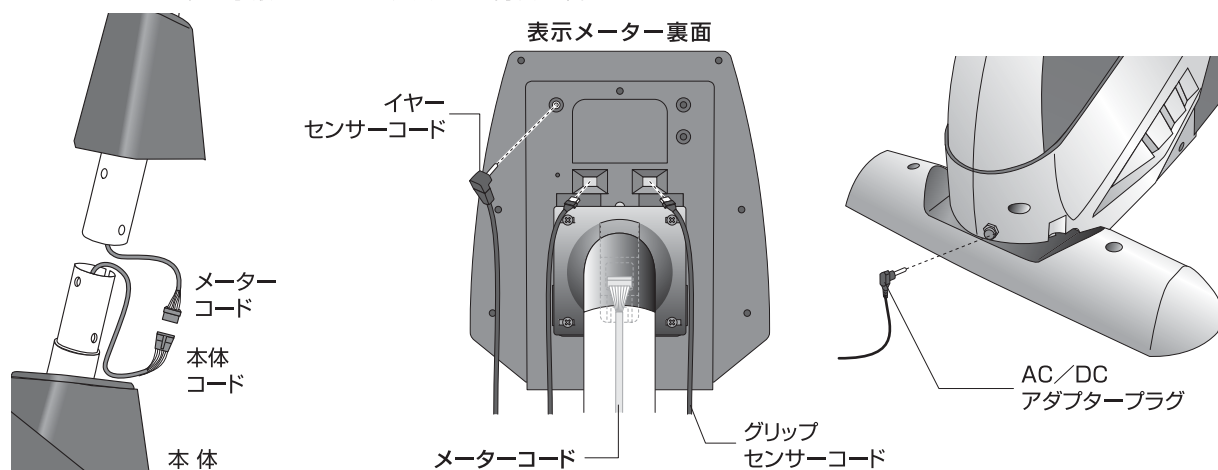
→ 組立手順 1～8 を参照の上、工具で取付部をしっかり締めてください。

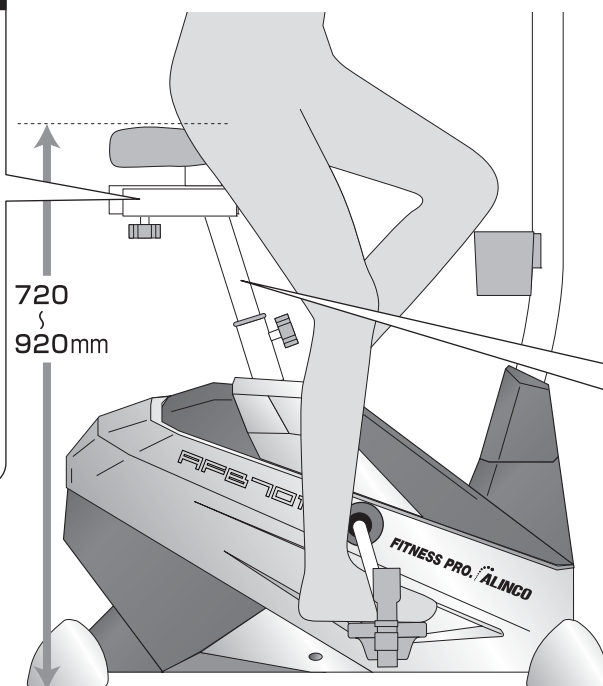
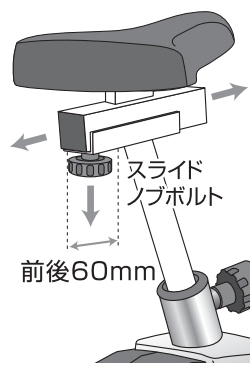
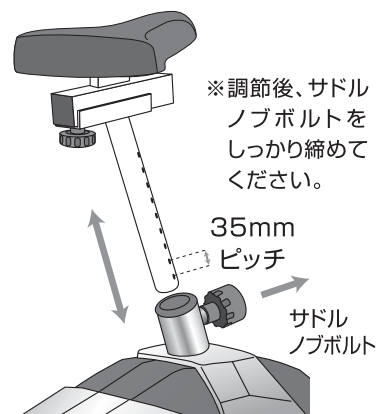
チェック 2…ペダルをこいだら、スムーズに回転しますか?

→ 組立手順2で固定したペダルボルトを、工具で増し締めしてください。ペダルボルトの固定が緩いと、異音が発生することがあります

※ペダルを回すと、本体内部のホイールが回転し、少なからずホイールの回転音とマグネットの引力による小さな振動が発生しますが、異常ではございませんので予めご了承ください。

チェック 3…各コードの接続は間違えていませんか?

→ 組立手順 4･7･8 を参照の上、再度ご確認ください。

■ サドルの調節

バイクにまっすぐに座り、ペダルが一番下の位置の時に足の裏の中心がペダル面に届き、その際にひざが軽く曲がる程度にしてください。サドルの地上高は最低720mm、最高で920mmまで35mmピッチの7段階です。
また、サドル下のスライドノブボルトを緩めることにより、前後60mmでサドルの位置を変えることができます。

表示メーターの機能

この表示メーターは**トレーニングメニューの選択**や**ペダル負荷の調整**をすることができます。
また、運動を中止してから数分後、自動的にメーター表示が消える「**オートパワーオフ機能**」が付いています。

メイン表示部 下

運動中のペダル負荷を表示します。
また、トレーニングメニューの選択を表示します。

メイン表示部 上

使用中にモードダイヤルを押すと表示項目が切り替わります。
また、数値入力画面を表示します。

固定表示部

時 間（分:秒）

運動経過時間を表示します。

速度（km/h）／回転数（RPM）

運動中の速度と、1分あたりのペダル回転数を交互に表示します。

距 離（km）

走行距離を表示します。

カロリー（kcal）

運動中の消費カロリーを表示します。
注）同じ運動をしても個人差（体格・体質）によって消費するカロリーは違います。
あくまで一般的な目安としてください。

心拍数（拍／分）

測定した心拍数を表示します。

ペダル負荷レベル／運動量（w）

ペダル負荷変更時には、ペダル負荷レベルを表示します。
通常時は、運動中の運動量を表示します。

モードダイヤル

【ダイヤルを回すと】
トレーニングメニューの選択、ペダル負荷の調節、数値入力を行います。
【ダイヤルを押すと】
メイン表示部の表示項目の選択、決定、切替を行います。

リセットボタン

このボタンを押すと、トレーニングメニューの選択画面に戻ります。
また、ボタンを長押し（3秒以上）で初期画面（ユーザー登録画面）に戻ります。

スタート／ストップボタン

このボタンを押すと、選択したトレーニングメニューをスタートします。
もう一度押すとストップします。

体力評価ボタン

このボタンを押すと体力評価プログラムが始まります。
P19「表示メーターの操作方法（体力評価）」を御覧ください。
注）心拍数測定状態でなければ、このボタンを押しても反応しません。

体脂肪測定ボタン

体脂肪の測定を開始します。
測定後、もう一度このボタンを押すと通常画面に戻ります。

●運動を開始してもメーター表示が出ない場合には、「組立手順4、7、8」を参照の上、再度ご確認ください。
●ボタン操作の際は強く押さないでください。破損の原因になります。

表示メーターの操作方法（ユーザー登録）

本体にAC／DCアダプターを差し込んだとき、または【リセットボタン】を長押し（3秒以上）すると、初期画面（ユーザー登録画面）になります。

1 登録番号を選択

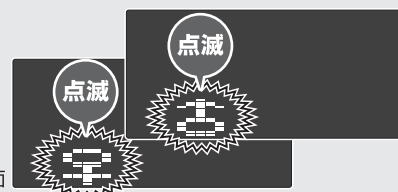
【モードダイヤル】を回し、U1～U9の登録番号を選択し、
【モードダイヤル】を押して決定します。

U1～U9を選択した段階で【スタート/ストップ】ボタンを
押すとマニュアルモードでスタートします。

登録番号選択画面

2 性別を入力

【モードダイヤル】を回し、男性（♂）または女性（♀）を選択し、
【モードダイヤル】を押して決定します。

性別入力画面

3 年齢を入力

【モードダイヤル】を回し、年齢（1歳～99歳）を入力し、
【モードダイヤル】を押して決定します。

年齢入力画面

4 身長を入力

【モードダイヤル】を回し、身長（100cm～200cm）を入力し、
【モードダイヤル】を押して決定します。

身長入力画面

5 体重を入力

【モードダイヤル】を回し、体重（20kg～150kg）を入力し、
【モードダイヤル】を押して決定します。

体重入力画面

⚠ 注 意　但し、本製品の使用体重制限は90kgです。

6 トレーニングメニューの選択

次ページ以降、各トレーニングメニューのページをご覧ください。

MAN.　：　マニュアルモード
特にプログラムを設定せず、自由に運動するモードです‥‥12ページへ

PROG　：　プログラムモード
12種類のプログラムから選択して運動するモードです‥‥13ページへ

USER　：　ユーザープログラムモード
オリジナルのプログラムを組んで運動するモードです‥‥14ページへ

H.R.C.　：　ハートレートコントロールモード
設定された目標心拍数、また設定された年齢情報から目標心拍数が計算され、運動中の心拍数がその数値に近づくようにペダル負荷レベルを自動変化させてくれるモードです‥‥15ページへ

WATT　：　ワットコントロールモード
設定された運動量（ワット）を一定に保つように、ペダル負荷レベルを自動変化させてくれるモードです‥‥17ページへ

トレーニングメニュー選択画面

●運動を開始してもメーター表示が出ない場合には、「組立手順4、7、8」を参照の上、再度ご確認ください。

●このメーターは操作を中止してから数分後、自動的に電源が切れる「オートパワーオフ機能」が付いています。途中で操作を中断し電源が切れた場合は、再度いずれかのボタンを押すと電源が入り、引き続き設定が行えます。（電源が切れた時の状態から始まります。）

表示メーターの操作方法（マニュアルモード）

マニュアルモード　：　特にプログラムを設定せず、自由に運動するモードです。

11ページの初期画面（ユーザー登録画面）操作手順1～6までを行った後、以下の手順で操作してください。

1 トレーニングメニューの選択

【モードダイヤル】を回し、メイン表示部下に「MAN.」の表示を選択し、
【モードダイヤル】を押して決定します。

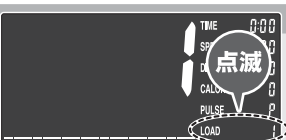
トレーニングメニュー選択画面

そのままスタートする場合

設定を行う場合

2 ペダル負荷レベルの設定

固定表示部最下段の「LOAD」が点滅します。

ペダル負荷レベル設定画面

2-1 負荷レベルの入力

【モードダイヤル】を回し、ペダル負荷レベル（1～16）を入力します。

ペダル負荷レベル入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

ペダル負荷レベルは、トレーニング中も調整できますので、入力されない場合はそのまま【モードダイヤル】を押して次に進んでください。

3 必要な項目を選択・設定

【モードダイヤル】を押すたびに　「時間」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」と点滅する項目が切り替わっていきます。

表示が点滅している状態で【モードダイヤル】を回すと、その項目の目標値を設定することができます。

複数の項目を同時に設定すると、それぞれの設定値に達する度にアラームが鳴り、運動が中断されてしまい、実用的ではありません。設定される項目は1つにされる方が良いでしょう。

3-1 時間の設定

【モードダイヤル】を押し、「時間」表示が点滅している状態にします。

時間設定画面

3-1-2 目標時間の入力

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力します。
（トレーニング中、時間表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標時間入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

3-2 距離の設定

【モードダイヤル】を押し、「距離」表示が点滅している状態にします。

距離設定画面

3-2-2 目標距離の入力

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力します。
（トレーニング中、距離表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標距離入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

3-3 カロリーの設定

【モードダイヤル】を押し、「カロリー」表示が点滅している状態にします。

カロリー設定画面

3-3-2 目標カロリーの入力

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力します。
（トレーニング中、カロリー表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標カロリー入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

3-4 心拍数の設定

【モードダイヤル】を押し、「心拍」表示が点滅している状態にします。

心拍数設定画面

3-4-2 目標心拍数の入力

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力します。
（トレーニング中、目標心拍数以上に心拍数が上がるとアラームが鳴ります。）

目標心拍数入力画面

【モードダイヤル】を押すと、「時間」設定画面へ戻ります。

4 運動の開始

【スタート／ストップボタン】を押して運動を開始します。

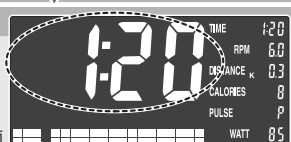
- メイン表示部上は
  「時間」→「速度／回転数」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」→「運動量（ワット）」
  の順に表示する項目が切り替わります。
  （『手順4-2』でメイン表示部上に表示される項目を固定することができます。）
- 「速度／回転数」表示は
  運動中に「速度表示（km/h）」と「回転数表示（RPM）」を交互に表示します。
- メイン表示部のプログラム表示は走行距離0.1kmごとに点滅している列が移動します。ただし、目標時間を設定している時は設定した時間を20分割し、経過時間に合わせて移動します。

4-1 ペダル負荷の調節

運動中に【モードダイヤル】を回すとペダル負荷レベルを変更することができます。

ペダル負荷レベル変更画面

4-2 表示切替

運動中に【モードダイヤル】を押すとメイン表示部上に表示される項目を切り替えることができます。

表示切替画面

5 運動の終了

【スタート／ストップボタン】を押して運動を終了します。

- 手順3で、「時間」や「距離」、「カロリー」の目標値を設定している場合には、設定した数値に達すると、アラームが鳴り自動的に終了します。

6 リセットで初期画面に戻る

【リセットボタン】を押すと、トレーニングメニューの選択画面に戻ります。（P11 手順6へ）

【リセットボタン】を長押し（3秒以上）で、登録番号の選択画面に戻ります。（P11 手順1へ）

表示メーターの操作方法（プログラムモード）

プログラムモード ： 12種類のプログラムから選択して運動するモードです。

11ページの初期画面（ユーザー登録画面）操作手順1～6までを行った後、以下の手順で操作してください。

1 トレーニングメニューの選択

トレーニングメニュー選択画面

【モードダイヤル】を回し、メイン表示部下に「PROG」の表示を選択し、【モードダイヤル】を押して決定します。

2 プログラムの選択

プログラム選択画面

【モードダイヤル】を回し、プログラム（P01～P12）を選択し、【モードダイヤル】を押して決定します。

そのままスタートする場合

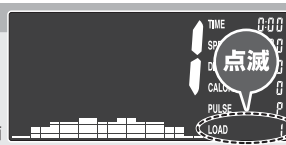
設定を行う場合

3 ペダル負荷レベルの設定

固定表示部最下段の「LOAD」が点滅します。

ペダル負荷レベル設定画面

3-1 負荷レベルの入力

【モードダイヤル】を回し、全体のペダル負荷レベルを変更することができます。

ペダル負荷レベル入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

ポイント ペダル負荷レベルは、トレーニング中も調整できますので、入力されない場合はそのまま【モードダイヤル】を押して次に進んでください。

4 必要な項目を選択・設定

【モードダイヤル】を押すたびに 「時間」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」と点滅する項目が切り替わっていきます。

表示が点滅している状態で【モードダイヤル】を回すと、その項目の目標値を設定することができます。

ポイント 複数の項目を同時に設定すると、それぞれの設定値に達する度にアラームが鳴り、運動が中断されてしまい、実用的ではありません。設定される項目は1つにされる方が良いでしょう。

4-1 時間の設定

【モードダイヤル】を押し、「時間」表示が点滅している状態にします。

時間設定画面

4-1-2 目標時間の入力

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力します。

（トレーニング中、時間表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標時間入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

4-2 距離の設定

【モードダイヤル】を押し、「距離」表示が点滅している状態にします。

距離設定画面

4-2-2 目標距離の入力

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力します。

（トレーニング中、距離表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標距離入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

4-3 カロリーの設定

【モードダイヤル】を押し、「カロリー」表示が点滅している状態にします。

カロリー設定画面

4-3-2 目標カロリーの入力

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力します。

（トレーニング中、カロリー表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標カロリー入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

4-4 心拍数の設定

【モードダイヤル】を押し、「心拍」表示が点滅している状態にします。

心拍数設定画面

4-4-2 目標心拍数の入力

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力します。

（トレーニング中、目標心拍数以上に心拍数が上がるとアラームが鳴ります。）

目標心拍数入力画面

【モードダイヤル】を押すと、「時間」設定画面へ戻ります。

5 運動の開始

【スタート／ストップボタン】を押して運動を開始します。

- メイン表示部上は「時間」→「速度／回転数」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」→「運動量（ワット）」の順に表示する項目が切り替わります。（『手順5-2』でメイン表示部上に表示される項目を固定することができます。）
- 「速度／回転数」表示は運動中に「速度表示（km/h）」と「回転数表示（RPM）」を交互に表示します。
- メイン表示部のプログラム表示は走行距離0.1kmごとに点滅している列が移動します。ただし、目標時間を設定している時は設定した時間を20分割し、経過時間に合わせて移動します。

5-1 ペダル負荷の調節

運動中に【モードダイヤル】を回すとペダル負荷レベルを変更することができます。

ペダル負荷レベル変更画面

5-2 表示切替

運動中に【モードダイヤル】を押すとメイン表示部上に表示される項目を切り替えることができます。

表示切替画面

6 運動の終了

【スタート／ストップボタン】を押して運動を終了します。

- 手順4で、「時間」や「距離」、「カロリー」の目標値を設定している場合には、設定した数値に達すると、アラームが鳴り自動的に終了します。

7 リセットで初期画面に戻る

【リセットボタン】を押すと、トレーニングメニューの選択画面に戻ります。（P11 手順6へ）

【リセットボタン】を長押し（3秒以上）で、登録番号の選択画面に戻ります。（P11 手順1へ）

表示メーターの操作方法（ユーザープログラムモード）

ユーザープログラムモード　：　オリジナルのプログラムを組んで運動するモードです。

11ページの初期画面（ユーザー登録画面）操作手順1～6までを行った後、以下の手順で操作してください。

1 トレーニングメニューの選択

【モードダイヤル】を回し、メイン表示部下に「USER」の表示を選択し、【モードダイヤル】を押して決定します。

2 プログラムの作成

メイン表示部下のプログラム1列目が点滅します。→【モードダイヤル】を回し、1列目のペダル負荷レベルを入力します。
【モードダイヤル】を押すと次の列に移動します。

メイン表示部下のプログラム2列目が点滅します。→【モードダイヤル】を回し、2列目のペダル負荷レベルを入力します。
【モードダイヤル】を押すと次の列に移動します。

以下、同様に20列目までペダル負荷レベルを入力していきます。
20列目の入力後、【モードダイヤル】を押すと、再び1列目のペダル負荷レベルの入力画面になります。

設定を行う場合

（そのままスタートする場合 → 5へ）

3 設定画面へ切替

【モードダイヤル】を長押し（3秒以上）すると、アラームがピッと1回鳴り、設定画面に切り替わります。

4 必要な項目を選択・設定

【モードダイヤル】を押すたびに　「時間」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」と点滅する項目が切り替わっていきます。

表示が点滅している状態で【モードダイヤル】を回すと、その項目の目標値を設定することができます。

ポイント 複数の項目を同時に設定すると、それぞれの設定値に達する度にアラームが鳴り、運動が中断されてしまい、実用的ではありません。設定される項目は1つにされる方が良いでしょう。

4-1 時間の設定

【モードダイヤル】を押し、「時間」表示が点滅している状態にします。

時間設定画面

4-1-2 目標時間の入力

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力します。
（トレーニング中、時間表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標時間入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

4-2 距離の設定

【モードダイヤル】を押し、「距離」表示が点滅している状態にします。

距離設定画面

4-2-2 目標距離の入力

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力します。
（トレーニング中、距離表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標距離入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

4-3 カロリーの設定

【モードダイヤル】を押し、「カロリー」表示が点滅している状態にします。

カロリー設定画面

4-3-2 目標カロリーの入力

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力します。
（トレーニング中、カロリー表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標カロリー入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

4-4 心拍数の設定

【モードダイヤル】を押し、「心拍」表示が点滅している状態にします。

心拍数設定画面

4-4-2 目標心拍数の入力

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力します。
（トレーニング中、目標心拍数以上に心拍数が上がるとアラームが鳴ります。）

目標心拍数入力画面

【モードダイヤル】を押すと、「時間」設定画面へ戻ります。

5 運動の開始

【スタート／ストップボタン】を押して運動を開始します。

- メイン表示部上は
「時間」→「速度／回転数」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」→「運動量（ワット）」
の順に表示する項目が切り替わります。
（『手順5-2』でメイン表示部上に表示される項目を固定することができます。）
- 「速度／回転数」表示は
運動中に「速度表示（km/h）」と「回転数表示（RPM）」を交互に表示します。
- メイン表示部のプログラム表示は走行距離0.1kmごとに点滅している列が移動します。ただし、目標時間を設定している時は設定した時間を20分割し、経過時間に合わせて移動します。

5-1 ペダル負荷の調節

運動中に【モードダイヤル】を回すとペダル負荷レベルを変更することができます。

ペダル負荷レベル変更画面

5-2 表示切替

運動中に【モードダイヤル】を押すとメイン表示部上に表示される項目を切り替えることができます。

表示切替画面

6 運動の終了

【スタート／ストップボタン】を押して運動を終了します。

- 手順4で、「時間」や「距離」、「カロリー」の目標値を設定している場合には、設定した数値に達すると、アラームが鳴り自動的に終了します。

7 リセットで初期画面に戻る

【リセットボタン】を押すと、トレーニングメニューの選択画面に戻ります。（P11 手順6へ）

【リセットボタン】を長押し（3秒以上）で、登録番号の選択画面に戻ります。（P11 手順1へ）

表示メーターの操作方法

表示メーターの操作方法（ハートレートコントロールモード）

ハートレートコントロールモード　：　あらかじめ設定された年齢情報から目標心拍数が計算され、運動中の心拍数がその数値に近づくようにペダル負荷レベルを自動変化させてくれるモードです。

11ページの初期画面（ユーザー登録画面）操作手順1～6までを行った後、以下の手順で操作してください。

1 トレーニングメニューの選択

【モードダイヤル】を回し、メイン表示部下に「H.R.C.」の表示を選択し、
【モードダイヤル】を押して決定します。

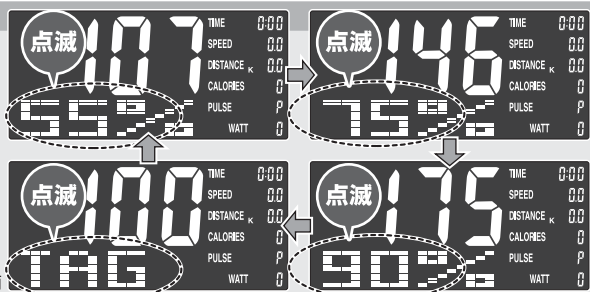
トレーニングメニュー選択画面

2 目標心拍数の設定

メイン表示部下に「55%」の表示がでます。
「55%」とは、最初に入力された年齢情報から計算された最大心拍数に対する割合を示しています。このとき、メイン画面上には、その割合で計算された目標心拍数が表示されます。

【モードダイヤル】を回し、
「55%」「75%」「90%」「TAG」の中から選択します。

「TAG」とは、ターゲット（目標）の事です。
「TAG」を選択すると、計算された割合ではなく、目標心拍数を数値で入力する事ができます。

目標心拍数選択画面

3-1 「55%」「75%」「90%」を選択

【モードダイヤル】を押し、決定します。

H.R.C.55	H.R.C.75	H.R.C.90	H.R.C.Tag
軽めの運動	標準的な有酸素運動	かなりきつめの運動	数値で目標設定

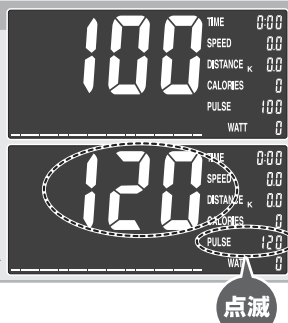
3-2 「TAG」を選択

【モードダイヤル】を押し、決定します。

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力します。

入力後、【モードダイヤル】を押し、決定します。

目標心拍数入力画面

点滅

そのままスタートする場合

設定を行う場合

4 必要な項目を選択・設定

【モードダイヤル】を押すたびに　「時間」→「距離」→「カロリー」と点滅する項目が切り替わっていきます。

表示が点滅している状態で【モードダイヤル】を回すと、その項目の目標値を設定することができます。

複数の項目を同時に設定すると、それぞれの設定値に達する度にアラームが鳴り、運動が中断されてしまい、実用的ではありません。設定される項目は1つにされる方が良いでしょう。

4-1 時間の設定

【モードダイヤル】を押し、「時間」表示が点滅している状態にします。

時間設定画面

4-1-2 目標時間の入力

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力します。
（トレーニング中、時間表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標時間入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

4-2 距離の設定

【モードダイヤル】を押し、「距離」表示が点滅している状態にします。

距離設定画面

4-2-2 目標距離の入力

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力します。
（トレーニング中、距離表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標距離入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

4-3 カロリーの設定

【モードダイヤル】を押し、「カロリー」表示が点滅している状態にします。

カロリー設定画面

4-3-2 目標カロリーの入力

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力します。
（トレーニング中、カロリー表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標カロリー入力画面

【モードダイヤル】を押すと、「時間」設定画面へ戻ります。

5 運動の開始へ（次ページ参照）

表示メーターの操作方法（ハートレートコントロールモード）

5 運動の開始

【スタート／ストップボタン】を押して運動を開始します。

※「ハートレートコントロールモード」は心拍数によってペダル負荷レベルが自動変化するモードです。イヤーセンサーまたは、グリップセンサーで心拍数を測定した状態で運動してください

●メイン表示部上は

「時間」→「速度／回転数」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」→「運動量（ワット）」

の順に表示する項目が切り替わります。
（『手順5-2』でメイン表示部上に表示される項目を固定することができます。）

●「速度／回転数」表示は
運動中に「速度表示（km/h）」と「回転数表示（RPM）」を交互に表示します。

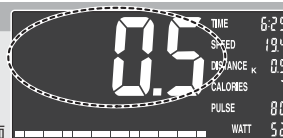
●メイン表示部のプログラム表示は走行距離0.1kmごとに点滅している列が移動します。ただし、目標時間を設定している時は設定した時間を20分割し、経過時間に合わせて移動します。

5-1 ペダル負荷の調節

「ハートレートコントロールモード」では運動中に【モードダイヤル】を回してもペダル負荷レベルを変更することはできません。

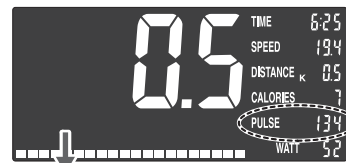
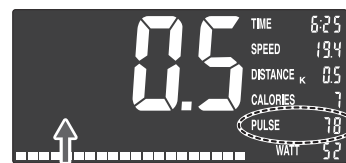
5-2 表示切替

運動中に【モードダイヤル】を押すとメイン表示部上に表示される項目を切り替えることができます。

表示切替画面

ハートレートコントロール機能

運動中の心拍数が、手順3で設定された目標心拍数より低ければ、ペダル負荷レベルは1段階ずつ上がっていきます。

運動中の心拍数が、手順3で設定された目標心拍数より高ければ、「ピッピッ」とアラームがなり、ペダル負荷レベルは1段階ずつ下がっていきます。

●負荷レベル1まで下がっても、なお心拍数が設定された目標心拍数より高い状態が続くと、自動的に終了します。

6 運動の終了

【スタート／ストップボタン】を押して運動を終了します。

●手順4で、「時間」や「距離」、「カロリー」の目標値を設定している場合には、設定した数値に達すると、アラームが鳴り自動的に終了します。

7 リセットで初期画面に戻る

【リセットボタン】を押すと、トレーニングメニューの選択画面に戻ります。（P11 手順6へ）

【リセットボタン】を長押し（3秒以上）で、登録番号の選択画面に戻ります。（P11 手順1へ）

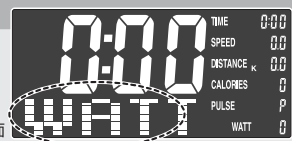
表示メーターの操作方法（ワットコントロールモード）

ワットコントロールモード　：　あらかじめ設定された運動量（ワット）を一定に保つように、ペダル負荷レベルを自動変化させてくれるモードです。

11ページの初期画面（ユーザー登録画面）操作手順1～6までを行った後、以下の手順で操作してください。

1 トレーニングメニューの選択

【モードダイヤル】を回し、メイン表示部下に「WATT」の表示を選択し、
【モードダイヤル】を押して決定します。

トレーニングメニュー選択画面

2 運動量（ワット）の設定

メイン表示部上に「120」の表示がでます。

【モードダイヤル】を回し、
運動量（ワット）を入力します。

運動量（ワット）設定画面

ポイント　ご自身の体力にあった運動量を入力してください。『マニュアルモード』で運動したときに表示されている運動量を参考にされると良いでしょう。

運動量（ワット）入力画面

そのままスタートする場合

設定を行う場合

3 必要な項目を選択・設定

【モードダイヤル】を押すたびに　「時間」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」と点滅する項目が切り替わっていきます。

表示が点滅している状態で【モードダイヤル】を回すと、その項目の目標値を設定することができます。

ポイント　複数の項目を同時に設定すると、それぞれの設定値に達する度にアラームが鳴り、運動が中断されてしまい、実用的ではありません。設定される項目は1つにされる方が良いでしょう。

3-1 時間の設定

【モードダイヤル】を押し、「時間」表示が点滅している状態にします。

時間設定画面

3-1-2 目標時間の入力

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力します。
（トレーニング中、時間表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標時間入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

3-2 距離の設定

【モードダイヤル】を押し、「距離」表示が点滅している状態にします。

距離設定画面

3-2-2 目標距離の入力

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力します。
（トレーニング中、距離表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標距離入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

3-3 カロリーの設定

【モードダイヤル】を押し、「カロリー」表示が点滅している状態にします。

カロリー設定画面

3-3-2 目標カロリーの入力

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力します。
（トレーニング中、カロリー表示はカウントダウンされていき、0になると、アラームが鳴り停止します。）

目標カロリー入力画面

【モードダイヤル】を押すと、次へ進みます。

3-4 心拍数の設定

【モードダイヤル】を押し、「心拍」表示が点滅している状態にします。

心拍数設定画面

3-4-2 目標心拍数の入力

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力します。
（トレーニング中、目標心拍数以上に心拍数が上がるとアラームが鳴ります。）

目標心拍数入力画面

【モードダイヤル】を押すと、「時間」設定画面へ戻ります。

4 運動の開始へ（次ページ参照）

表示メーターの操作方法（ワットコントロールモード）

4 運動の開始

【スタート／ストップボタン】を押して運動を開始します。

●メイン表示部上は

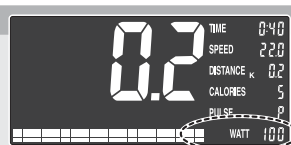
「時間」→「速度／回転数」→「距離」→「カロリー」→「心拍数」→「運動量（ワット）」

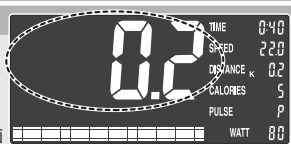
の順に表示する項目が切り替わります。
（『手順4-2』でメイン表示部上に表示される項目を固定することができます。）

●「速度／回転数」表示は
運動中に「速度表示（km/h）」と「回転数表示（RPM）」を交互に表示します。

●メイン表示部のプログラム表示は走行距離0.1kmごとに点滅している列が移動します。ただし、目標時間を設定している時は設定した時間を20分割し、経過時間に合わせて移動します。

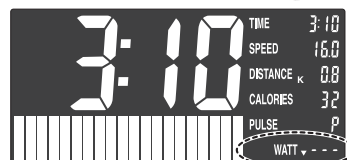
4-1 ペダル負荷の調節

運動中に【モードダイヤル】を回すと手順2で入力した運動量（ワット）を変更することができます。

4-2 表示切替

運動中に【モードダイヤル】を押すとメイン表示部上に表示される項目を切り替えることができます。

表示切替画面

ワットコントロール機能

運動中の運動量（ワット数）が、手順2で設定された運動量（ワット）より低ければ、ペダル負荷レベルは上がっていきます。

●負荷レベル16まで上がっても、なお運動量（ワット）が設定された値より低い場合は、運動量表示は「▼　― ― ―」と表示されます。

運動中の運動量（ワット数）が、手順2で設定された運動量（ワット）より高ければ、ペダル負荷レベルは下がっていきます。

●負荷レベル1まで下がっても、なお運動量（ワット）が設定された値より高い場合は、運動量表示は「▲　― ― ―」と表示されます。

ポイント　運動量（ワット数）は、ペダル負荷と回転速度から計算されています。ワットコントロールモードは、一定の運動量を保つ機能ですので、ペダル回転数が遅くなればペダル負荷レベルが上がり、ペダル回転数が早くなればペダル負荷レベルが下がります。
適度なペダル回転数（速度）を保つように意識しながら運動しましょう。

5 運動の終了

【スタート／ストップボタン】を押して運動を終了します。

●手順3で、「時間」や「距離」、「カロリー」の目標値を設定している場合には、設定した数値に達すると、アラームが鳴り自動的に終了します。

6 リセットで初期画面に戻る

【リセットボタン】を押すと、トレーニングメニューの選択画面に戻ります。（P11 手順6へ）
【リセットボタン】を長押し（3秒以上）で、登録番号の選択画面に戻ります。（P11 手順1へ）

表示メーターの操作方法（体力評価）

■体力評価　：　運動によって上昇した心拍数が、運動終了後1分間でどれくらい安静時の心拍数に近づいたか（回復したか）を評価します。

●一般的に心肺機能の優れている人は、運動開始時の心拍数はゆるやかに上昇し、運動終了後は直ちに回復しようとする傾向にあります。
●逆に運動不足がちな人は運動を開始し、運動強度が強くなるに伴い心拍数が急上昇し、運動を終了してもなかなか安静時の心拍数まで回復しない傾向があります。
この機械では、運動直後の上昇した心拍数と、運動を中止した1分後の心拍数の差から、6段階評価で表示します。以下の手順で操作してください。

1 運動によって、心拍数が上がった状態にする

運動を行い、心拍数を上げます。
（心拍数が上がっている状態であれば、どのトレーニングメニューでもよい）

体力評価準備画面

2 体力評価開始

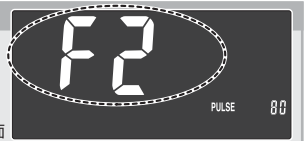
心拍数が上がった状態で、【体力評価ボタン】を押し、運動を中止します。
メイン表示部上には「60」の表示が出た後、カウントダウンしていきます。
●心拍数を測定していない状態では、【体力評価ボタン】を押しても反応しません。
●カウントダウンの間は、身体を休めた状態で心拍数を測り続けてください。

体力評価開始画面

3 体力評価結果表示

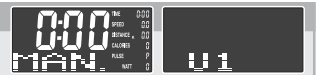
カウントダウン終了後、メイン表示部上に「F1」～「F6」の表示がでます。

F1　F2　F3　F4　F5　F6
非常に優れている ◀ ▶ 劣っている

体力評価結果画面

4 体力評価終了

再度、【体力評価ボタン】を押すと、元の画面に戻ります。

5 リセットで初期画面に戻る

【リセットボタン】を押すと、トレーニングメニューの選択画面に戻ります。（P11 手順6へ）
【リセットボタン】を長押し（3秒以上）で、登録番号の選択画面に戻ります。（P11 手順1へ）

表示メーターの操作方法（体脂肪測定）

■体力評価　：　運動によって上昇した心拍数が、運動終了後1分間でどれくらい安静時の心拍数に近づいたか（回復したか）を評価します。

●体脂肪率の測定には、水分率や骨密度なども大きく関係します。本機では簡易的な測定となりますので、あくまで目安としてお使いください。

1 体脂肪測定を開始する

【体脂肪測定ボタン】を押し、グリップセンサーを握ります。（ペダルをこぐ必要はありません。）
メイン表示部下に、現在選択されている登録番号が表示され、その後、測定を始めます。
正しく測定できている時には、メイン表示部下に、左から右へ『・・・・　　　』と表示されていきます。
測定できていない時には、メイン表示部下に、左右交互に『　——　——　』が表示されます。
その場合、ハンドルから出ているグリップセンサーコードが、表示メーター裏に正しく差し込まれているか、ご確認ください。

登録番号表示画面
測定画面（正しく測定）
測定画面（測定できていない）

2 測定結果表示

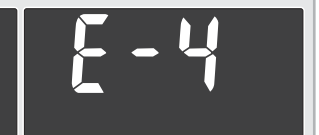
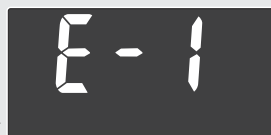
測定後、表示部には「体脂肪率（%）」、「判定」、「BMI値」を交互に表示します。
測定結果は、P20、21を参考にしてください。

測定結果画面
【体脂肪率（%）】

【判定】

【BMI値】

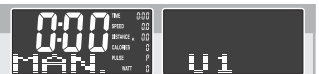
正しく測定できなかったときには、「E-1」または、「E-4」が表示されます。
「E-1」：グリップセンサーが正しく握られていなかったとき、ハンドルから出ているグリップセンサーコードが表示メーター裏に正しく差し 込まれていないときに表示されます。
「E-4」：ユーザー登録時の「体重」「身長」の入力が誤まっているときに表示されます。

エラー表示画面

3 体脂肪測定終了

再度、【体脂肪測定ボタン】を押すと、元の画面に戻ります。

4 リセットで初期画面に戻る

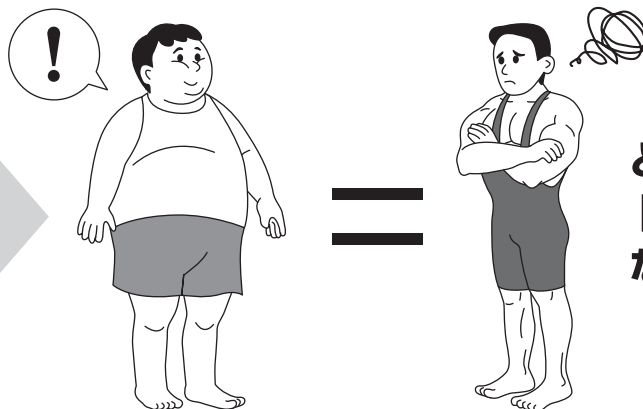
【リセットボタン】を押すと、トレーニングメニューの選択画面に戻ります。（P11 手順6へ）
【リセットボタン】を長押し（3秒以上）で、登録番号の選択画面に戻ります。（P11 手順1へ）

表示メーターの操作方法

体脂肪と体脂肪計について

■ あなたの肥満度は・・・？

従来の肥満度の目安として、よく「標準体重（kg）＝（身長－80）×0.7」などの数式を目にしたことはありませんか？
しかし、これでは実際の肥満度はわかりません。
特に、身長や体重だけでは内部の脂肪の量まではわかりませんし、筋肉の多い人などは筋肉の方が脂肪よりも重いので、この数式には当てはまらない人も多いでしょう。
また、近年見た目だけではわからない「かくれ肥満」の増加も指摘されています。
そんななか、今最も有効とされている「肥満度チェック」の方法が“体脂肪を測定して体脂肪率を知る”ことなのです。

例えば、従来の計算方法を使うと・・・

身長と体重が同じなら

どんな場合でも、「肥満度は同じ」になってしまう・・・？

■ 体脂肪率とは？

体脂肪率とは、“体重に対してどれだけの体脂肪があるか”ということを表している数値です。
この体脂肪が多ければ「肥満」の状態となり、高血圧症や高脂血症、糖尿病なども引き起こす可能性がありますし、時には心筋梗塞や狭心症などに発展する場合もあります。
では、体脂肪は少なければそれで良いかと言うと、そうでもありません。体脂肪値の少ない「やせすぎ」も健康にはあまり良くないと言われています。体脂肪は体温を保ったり、ビタミンを身体中に運搬したりする重要な役割も持っていますので、やせすぎると病原菌などへの抵抗力が衰え、病気になりやすくなったり疲れやすくなったりします。
つまり、健康を保つためには、体脂肪と筋力のバランスのとれた身体をつくることが一番重要なことと言えます。

体重が50kgで
体脂肪率が20%なら、
50×0.2=10で
体脂肪は
10kgの計算・・・。

■ 体脂肪の基準判定

本機で測定された体脂肪率は以下の表が基準値となります。
結果は、メイン表示部下に ⊖ ⊕ △ ◇ の4段階で表示されます。

	⊖ や せ	⊕ 標 準	△ 軽肥満	◇ 肥 満
男 性	10%未満	10%以上～20%未満	20%以上～25%未満	25%以上
女 性	20%未満	20%以上～30%未満	30%以上～35%未満	35%以上

B.M.I値とは

B.M.I値とはBody Mass Indexの略語で「体重（kg）÷身長（m）^{2}」で計算され、一般に「22」が基準といわれている値です。これによって一般的にやせ・正常・肥満の3種類を比較します。
あくまで体格的な基準として目安にしてください。
本機では、測定後体脂肪率とB.M.I値が交互に表示されます。

■ B.M.I値判定表

B.M.I 値	判　定
＜18.5	や　せ
18.5≦～＜25.0	正　常
25.0≦	肥　満

また、近年B.M.Iの判定値が肥満者（B.M.I値≧25.0）の人が増加していることが発表されています。

本機の測定方法

本機「AFB7010」は、微電流を流すインピーダンス方式ではなく、近赤外線方式を採用しています。
近赤外線方式とは、センサーより肉眼で見ることができない赤外線等を発し、その赤外線が手の平の組織を通して通過する時に体内の脂肪酸等によって屈折した赤外線の量を計る方法です。

■ ご使用にあたっての注意事項

体脂肪率の測定には、水分率や骨密度なども大きく関係します。
身体を鍛え抜いたアスリートなどの筋肉は、一般の方に比べ、体脂肪率が多く計算される場合があります。
また、以下のような方も、実際の体脂肪率と差が出る可能性があります。
このような場合、本機の体脂肪測定機能は、あくまで体脂肪率の変動を見る「めやす」としてお使いください。

アスリート（ボディビルダーや スポーツを職業とされる方など）

妊娠中の方

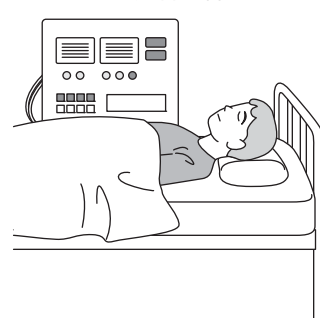
成長期の児童

高齢者

発熱している方

むくみ症の方

骨の密度が非常に低い方（骨粗鬆症患者など）

人工透析患者

2Wayパルスセンサーについて・故障かな?と思う前に

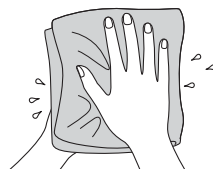
● 2Wayパルスセンサーについて:使用上の注意

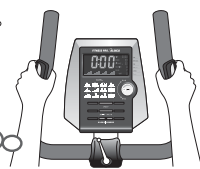
本機では、『グリップセンサー』または『イヤーセンサー』の2通りの方法で心拍数を測定できます。

グリップセンサー　イヤーセンサー

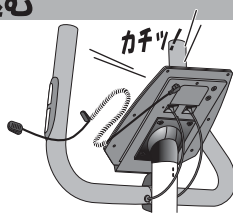
【グリップセンサー】

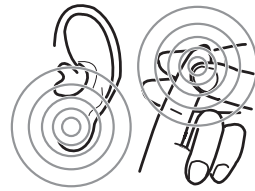
汗などで濡れた手でさわらない

グリップセンサーは汗などで手が濡れていると、正しく測定しません。タオルなどで手を拭いてから測定してください。
また、手の平が乾燥しすぎている時にも測定しにくくなります。

グリップセンサーは両手で握る

グリップセンサーは片手では測定できません。

【イヤーセンサー】

プラグをしっかりと差し込む

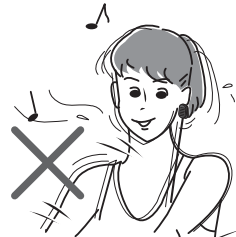
イヤーセンサーのプラグをメーター表面のジャックに「カチッ!」と音がするまで差し込んでください。きちんと差し込まれていないと心拍が検出されません。

イヤーセンサーをはさむ箇所をよくもむ

耳たぶまたは指先にイヤーセンサーの先をはさみます。その箇所をよくもんで血行をよくしてから、はさんでください。尚、クーラーや扇風機などの風が当たっていると検出しにくい場合があります。

感度の良い部分を見つける

心拍数を検出しやすい箇所は個人差があります。検出しにくい場合はあまり深くはさまないようにして少しずらすか、はさむ位置を変えてみてください。
最初にハートマークが点滅しにくい場合はイヤーセンサーを片方の手で強く押さえてください。

付属のクリップでえりもとに固定します

イヤーセンサーは激しくゆらさない

首やコードを振ったりしてイヤーセンサーを激しくゆらさないでください。日光、照明の光、振動によってセンサーが働き、極端に数値があがる場合があります。また、運動中にイヤーセンサーが動いたり、ずれたりすると、数値が0になる、極端にとぶなど、数値の乱れがありますが故障ではありませんのでご安心ください。

● このメーターは、医療用具ではありません。メーター上の数値はあくまで運動の目安としてご使用ください。
● 心拍数測定ができない場合は組立手順4・7のコードの接続をもう一度ご確認ください。

■ 故障かな?と思う前に　下記の項目を一度チェックしてください。

症　状	チェック箇所
●メーターが作動しない	○ AC/DCアダプターをコンセントに差し込んでいますか? ○ AC/DCアダプターのプラグを本体にしっかりと差し込んでいますか? ○ 本体コードとメーターコードの接続部をもう一度ご確認ください。(組立手順4) ○ メーターコードとメーター裏のコネクターの接続部をもう一度ご確認ください。(組立手順7)
●イヤーセンサーで心拍測定できない	○ イヤーセンサーコードとメーター裏のコネクターの接続部をもう一度ご確認ください。(組立手順7) ○『2Wayパルスセンサーについて』(本頁上)をお読みください。
●グリップセンサーで心拍測定できない	○ グリップセンサーコードとメーター裏のコネクターの接続部をもう一度ご確認ください。(組立手順7) ○『2Wayパルスセンサーについて』(本頁上)をお読みください。
●体脂肪測定時にエラー表示がでる	○「E-1」: グリップセンサーが正しく握られていなかったとき、ハンドルから出ているグリップセンサーコードが表示メーター裏に正しく差し込まれていないときに表示されます。グリップセンサーコードとメーター裏のコネクターの接続部をもう一度ご確認ください。(組立手順7) ○「E-4」: ユーザー登録時の「体重」「身長」の入力が誤まっているときに表示されます。ユーザー登録の内容をもう一度ご確認ください。
●ペダルがスムーズに回らない	○ ペダルを逆回転方向に回転させてみてください。 (内部のチェーンベルトにずれが生じた場合、逆回転させることによって補正されます。)
●ペダルを回すと異音がする	○ 左右のペダル固定が緩んでいませんか? 組立手順2 のペダル固定ボルトを再度しっかりと工具で締め付けてください。

上記チェックを行っても直らない場合、またはその他の状況が発生した場合には、お手数ですがサービスセンターまでお電話またはFAXでその状況を伝えてください。その際、上記以外の確認ポイントを説明させて頂く場合がありますがご協力の程お願いします。

お問い合わせは　サービスセンター　0120-30-4515
(AM10:00~PM4:00　但し、PM12:00~1:00及び土・日・祝祭日を除く)まで

表示メーターの操作方法　早見表

マニュアルモード　「MAN.」

【モードダイヤル】を押して決定

設定を行う場合

【モードダイヤル】を回し、ペダル負荷レベル（1～16）を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【スタート／ストップボタンを押して】運動を開始

運動中【モードダイヤル】を回してペダル負荷レベルの変更可能

【スタート／ストップボタンを押して】運動を終了

プログラムモード「PROG」

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、プログラム（P1～P12）選択

【モードダイヤル】を押して決定

設定を行う場合

【モードダイヤル】を回し、ペダル負荷レベルを変更

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【スタート／ストップボタンを押して】運動を開始

運動中【モードダイヤル】を回してペダル負荷レベルの変更可能

【スタート／ストップボタンを押して】運動を終了

- ●運動を開始してもメーター表示が出ない場合には、「組立手順4、7、8」を参照の上、再度ご確認ください。
- ●このメーターは操作を中止してから数分後、自動的に電源が切れる「オートパワーオフ機能」が付いています。途中で操作を中断し電源が切れた場合は、再度いずれかのボタンを押すと電源が入り、引き続き設定が行えます。（電源が切れた時の状態から始まります。）
- ●運動を終了されるときには、コンセントからDCアダプターを抜いてください。

本体にAC／DCアダプターを差し込む、または【リセットボタン】を長押し（3秒以上）して初期画面に戻す

登録番号を選択する

【モードダイヤル】を回し、U1～U9の登録番号を選択

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、男性（♂）または女性（♀）を選択

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、年齢（1歳～99歳）を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、身長（100cm～200cm）を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、体重（20kg～150kg）を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、トレーニングメニューを選択

ユーザープログラムモード「USER」

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、1列目のペダル負荷レベルを入力

【モードダイヤル】を押して決定

同様に20列目まで入力・決定

設定を行う場合

【モードダイヤル】を長押し（3秒以上）して設定画面に切替

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【スタート／ストップボタンを押して】運動を開始

運動中【モードダイヤル】を回してペダル負荷レベルの変更可能

【スタート／ストップボタンを押して】運動を終了

ハートレートコントロールモード「H.R.C.」

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を設定

「55%」「75%」「90%」を選択

「TAG」を選択

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力

【モードダイヤル】を押して決定

設定を行う場合

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力

【モードダイヤル】を押して決定

【スタート／ストップボタンを押して】運動を開始

【スタート／ストップボタンを押して】運動を終了

ワットコントロールモード「WATT」

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、運動量（ワット）を入力

【モードダイヤル】を押して決定

設定を行う場合

【モードダイヤル】を回し、目標時間を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標距離を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標カロリーを入力

【モードダイヤル】を押して決定

【モードダイヤル】を回し、目標心拍数を入力

【モードダイヤル】を押して決定

【スタート／ストップボタンを押して】運動を開始

運動中【モードダイヤル】を回して運動量（ワット）の変更可能

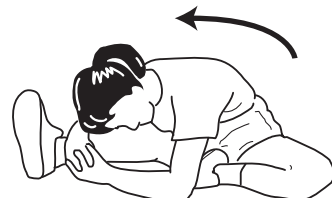
【スタート／ストップボタンを押して】運動を終了

トレーニングについて

アルインコフィットネス機器をより効率良く・効果的にご使用いただくために適した運動方法を紹介します。
運動する方の体力、年齢、運動経験などには個人差があり、普段運動していない方が急に負荷の高い運動をすると心臓等に負担をかけ、大変危険ですので無理をせず、マイペースに行いましょう。

これから運動を始める方・久しぶりに運動をする方は、運動頻度は週2回から運動を始め、ウォームアップからクールダウンまで20〜40分を目標にしましょう。

ウォームアップとクールダウン

ストレッチ例　運動前後に必ず行ってください。

クールダウンの方法は様々ですが、上記ストレッチの他、バイクなら軽い負荷でゆっくり5〜10分間続け、ウォーカーならゆっくりと歩く程度で同じく5〜10分間続けてください。

メインエクササイズ

有酸素運動＝しっかり呼吸をして酸素を体内に取り入れながらゆっくり長く運動すること

目的 ① 体脂肪の燃焼（ダイエット）

目的 ② 心肺機能の向上

より良い効果を得るには、個々の目的に合わせた正しい運動方法（心拍数チェック）を覚え、実践することです。
運動の強度により、体脂肪の燃焼に効果的なのか、心肺機能の向上に効果的なのかにわかれます。

目的 ① 体脂肪燃焼（ダイエット）のための運動

年齢	最大心拍数（1分間）	運動中の心拍数	
		1分間	10秒間
15	205	133～113	22～19
20	200	130～110	22～18
30	190	124～105	21～18
40	180	117～ 99	20～17
50	170	111～ 94	19～16
60	160	104～ 88	17～15
70	150	98～ 83	16～14

左表はどれくらいの心拍数で運動すればよいかの目安を示しています。心臓が脈打つ限界の回数(最大心拍数)は年齢によっておおよそ決まっています。表の最大心拍数では、40才の人なら心臓は1分間に180拍が上限になります。
体脂肪の燃焼が目的の場合、左表からご自身の年齢に適した1分間の心拍数(最大心拍数の55～65%)を目安に、運動中この心拍数を維持するようにしましょう。

目的 ② 心肺機能向上のための運動

年齢	最大心拍数（1分間）	運動中の心拍数	
		1分間	10秒間
15	205	174～133	29～22
20	200	170～130	28～22
30	190	162～124	27～21
40	180	153～117	26～20
50	170	145～111	24～19
60	160	136～104	23～17
70	150	128～ 98	21～16

心肺機能向上のための運動は、体脂肪の燃焼が目的の運動に比べ、目安となる心拍数はやや高めになります。
心肺機能の向上が目的の場合、左表からご自身の年齢に適した1分間の心拍数(最大心拍数の65～85%)を目安に、運動中この心拍数を維持するようにしましょう。

上表にある目的別の心拍数は年齢を目安として運動の心拍数を算出していますので、個人の体力レベルによっては表の心拍数で運動するときつく感じたり、非常に楽だということがあります。より自身の目的に適した運動の心拍数は下記の計算式にご自身の年齢と安静時の脈拍を測ることで計算していただけます。

{(220ー年齢)ー安静時心拍数}× 0.55(体脂肪の燃焼が目的) / 0.65(心肺機能向上が目的) ＋ 安静時心拍数=運動の目標心拍数

心拍数のチェック方法

脈拍の取りにくい方や正確な心拍数を測定するには右図のように左手首内側上部を右手の中指と人さし指で押さえます。1分間を測るのは大変ですから、上表のよう10秒間測り、その数値を6倍して1分間の心拍数に換算しましょう。

運動は20～30分を目標にしましょう。
また、1週間に2回を目安にはじめ、慣れてきたら徐々に回数を増やしていきましょう。運動を楽しく継続して行うことが、最も効果的で効率の良い健康への近道です。

運動を開始して体脂肪の燃焼が活発になるまで20分ほどかかります。運動を開始して最初の20分は血液の中を流れている脂肪がエネルギーとして利用されます。血液中の脂肪が燃焼され減ってくると、蓄えられている皮下脂肪や内臓脂肪を分解し、エネルギーとして利用しはじめます。そのため、体脂肪を燃焼させ効果的に減量(ダイエット)するためには、20分以上のゆっくりとした運動を続けることが大切です。
とはいえ、いきなり20分以上の運動をするのはとてもきつく感じてしまいます。運動を開始して20分以内では、ドロドロの血液をきれいにすることができますので、健康維持を目的の場合は20分以内でも効果があります。
ご自身の体力にあわせて、少しずつ運動の時間を長くしていきましょう。また、日常の体調管理、効果的な運動のためにも脈拍数のチェックは必ずおこなうようにしましょう。